

証拠番号【11】

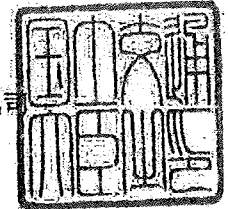


認定書

国住指第 4882 号
平成 22 年 4 月 12 日

鹿島建設株式会社
代表取締役社長 中村 満義 様

国土交通大臣 前原 誠司



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第二号及び第三号（外壁（非耐力壁）：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060NE-0141
2. 認定をした構造方法等の名称
両面鋼板張ロックウール保温板表張／無機繊維フェルト裏張／鉄骨下地外壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

両面鋼板張ロックウール保温板表張／無機繊維フェルト裏張／鉄骨下地外壁

2. 申請仕様の寸法

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項目	申請仕様
壁の高さ	構造計算等によって構造安定性が確かめられた寸法
壁厚	96mm以上

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様
外装材	<p>材料：両面鋼板張ロックウール保温板 幅：100～1150(±50)mm 働き幅：121.5～1171.5(±50)mm(目地部中央間の距離) 厚さ：76mm以上 表面材；</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外側； 材料：①～⑥の一 <ul style="list-style-type: none"> ①熔融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ②熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ③熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ④塗装熔融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) ⑤塗装熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) ⑥塗装熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) 厚さ：0.5mm以上 ④～⑥の塗料；1)、2)又は3) <ul style="list-style-type: none"> 1)ポリエステル樹脂系 2)フッ素樹脂系 3)エポキシ樹脂系 塗布量：50g/m²以下(有機質量) <ul style="list-style-type: none"> ・屋内側； 材料：①～③の一 <ul style="list-style-type: none"> ①熔融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ②熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ③熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) 厚さ：0.5mm以上 <p>芯材(断熱材)； 材料：人造鉱物繊維保温材(JIS A 9504) 種類：ロックウール保温板2号 密度：150kg/m³以上 厚さ：75mm以上</p> <p>接着剤(表面材と芯材の接着)； 材料：ウレタン系接着剤 使用量：350(±10)g/m²(片面当たり)</p>

つづく

つづき

<p>外装材</p>	<p>連結用金物； 材料：①～⑥の一 ①溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ②溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ③溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ④塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) ⑤塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) ⑥塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) 厚さ：0.5mm 以上 ④～⑥の塗料；1)、2)又は3) 1)ポリエステル樹脂系 2)フッ素樹脂系 3)エポキシ樹脂系 塗布量：50g/m² 以下(有機質量) 留付材：冷間成形リベット 材質：1)又は2) 1)軟鋼線材(JIS G 3505) 2)冷間圧造用炭素鋼線(JIS G 3507-2) 寸法：φ3.2mm 以上 留付本数：3 本以上(片面当たり) 留付間隔：2000mm 以下(片面当たり) 留付場所：小口/3 箇所以上 目地幅： 横目地(あり又はなし)；25mm 以下 たて目地；21.5mm 以下</p>
<p>下地材</p>	<p>材料：一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) たて材：①又は② ①L-75×60×4.5mm 以上 ②L-125×60×15×4.5mm 以上 つなぎ材：L-50×50×4mm 以上</p>
<p>被覆材</p>	<p>材料：無機繊維フェルト(国土交通大臣認定不燃材料：NM-0855) 厚さ：20mm 以上 重ね代：100mm 以上</p>
<p>下地被覆材</p>	<p>材料：無機繊維フェルト(国土交通大臣認定不燃材料：NM-0855) 厚さ：20mm 以上 かかり代：50mm 以上</p>
<p>横目地部 被覆材</p>	<p>材料：セラミックファイバーブランケット(JIS R 3311) 密度：130kg/m³ 以上 厚さ：25mm 以上 かかり代：220mm 以上</p>
<p>たて目地部 被覆材</p>	<p>材料：セラミックファイバーブランケット(JIS R 3311) 密度：130kg/m³ 以上 厚さ：25mm 以上 かかり代：80mm 以上</p>

4. 申請仕様の副構成材料：
申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
目地処理材	材料：①～④ ①シーリング材 材質：変成シリコン系 塗布量： たて目地：325(±35)g/m 横目地(横目地ありの場合)：375(±40)g/m ②ガスケット 材質：発泡シリコン系ゴム 厚さ：4(±1)mm ③バッカー 材質：発泡ポリエチレン 厚さ： 横目地：2mm以下 たて目地：7mm以下 ④防水シート 材質：ブチルゴム系 寸法：幅15(±1.5)×厚さ0.9(±0.2)mm
留付材	外装材と下地材の固定用： 材料：冷間成形リベット 材質：①、②又は③ ①鋼製：1)又は2) 1)軟鋼線材(JIS G 3505) 2)冷間圧造用炭素鋼線(JIS G 3507-2) 寸法：φ6.4mm以上 ②アルミニウム合金(JIS H 4040) 寸法：φ7.7mm以上 ③銅及び銅合金線(JIS H 3260) 寸法：φ6.4mm以上 留付間隔：600mm以下 たて目地位置の外装材とたて目地部被覆材の固定用： 材料：①～⑤ ①ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125) 寸法：φ4～5×長さ40～50mm 留付間隔：鉛直方向200mm以下(目地の左右を留付け) ②ワッシャー(ドリリングタッピンねじ用) 材質：1)、2)又は3) 1)一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 2)冷間圧延鋼板及び鋼帯(JIS G 3141) 3)機械構造用炭素鋼鋼材(JIS G 4051) 寸法：φ30×厚さ1.0mm以上 ③ケイ酸ソーダ系接着剤 使用量：1200(±100)g/m ² ④溶接ピン 種類：1)又は2) 1)なし(下地材と固定しない) 2)あり(下地材と固定する)

つづく

つづき

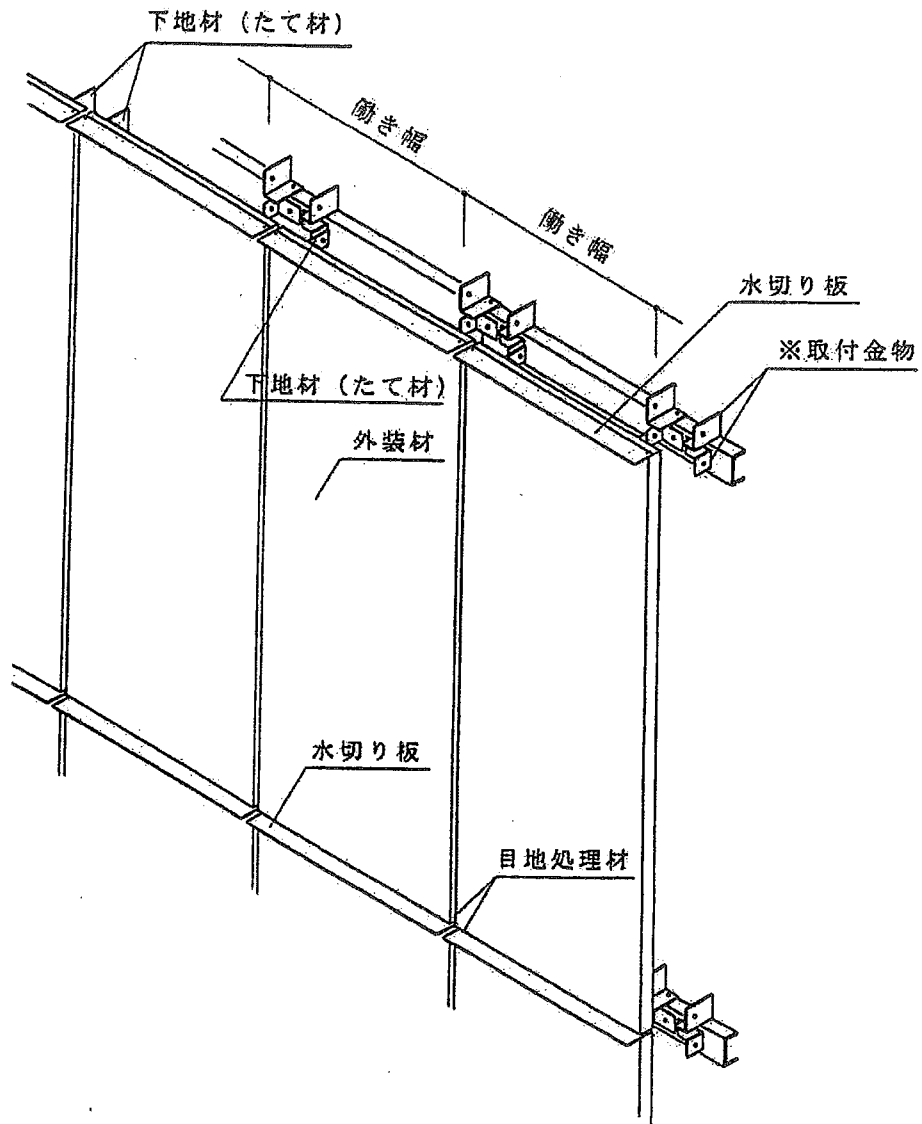
留付材	<p>材質：a) 又は b)</p> <p>a) 軟鋼線材 (JIS G 3505)</p> <p>b) 冷間圧造用炭素鋼線 (JIS G 3507-2)</p> <p>寸法：φ2.0×長さ 17mm 以上</p> <p>留付間隔：鉛直方向 200mm 以下 (目地の左右を留付け)</p> <p>⑤ワッシャー (溶接ピン用)</p> <p>種類：1) 又は 2)</p> <p>1) なし (溶接ピンを使用しない)</p> <p>2) あり (溶接ピンを使用する)</p> <p>材質：a)、b) 又は c)</p> <p>a) 一般構造用圧延鋼材 (JIS G 3101)</p> <p>b) 冷間圧延鋼板及び鋼帯 (JIS G 3141)</p> <p>c) 機械構造用炭素鋼鋼材 (JIS G 4051)</p> <p>寸法：φ30×厚さ 0.28mm</p>
	<p>横目地位置の外装材と横目地部被覆材の固定用：</p> <p>材料：①～⑤</p> <p>①ドリリングタッピンねじ (JIS B 1125)</p> <p>寸法：φ4～5×長さ 40～50mm</p> <p>留付間隔：水平方向 200mm 以下 (目地の上下を留付け)</p> <p>②ワッシャー (ドリリングタッピンねじ用)</p> <p>材質：1)、2) 又は 3)</p> <p>1) 一般構造用圧延鋼材 (JIS G 3101)</p> <p>2) 冷間圧延鋼板及び鋼帯 (JIS G 3141)</p> <p>3) 機械構造用炭素鋼鋼材 (JIS G 4051)</p> <p>寸法：φ30×厚さ 1.0mm 以上</p> <p>③ケイ酸ソーダ系接着剤</p> <p>使用量：1200 (±100) g/m²</p> <p>④溶接ピン</p> <p>種類：1) 又は 2)</p> <p>1) なし (下地材と固定しない)</p> <p>2) あり (下地材と固定する)</p> <p>材質：a) 又は b)</p> <p>a) 軟鋼線材 (JIS G 3505)</p> <p>b) 冷間圧造用炭素鋼線 (JIS G 3507-2)</p> <p>寸法：φ2.0×長さ 17mm 以上</p> <p>留付間隔：水平方向 200mm 以下 (目地の上下を留付け)</p> <p>⑤ワッシャー (溶接ピン用)</p> <p>種類：1) 又は 2)</p> <p>1) なし (溶接ピンを使用しない)</p> <p>2) あり (溶接ピンを使用する)</p> <p>材質：a)、b) 又は c)</p> <p>a) 一般構造用圧延鋼材 (JIS G 3101)</p> <p>b) 冷間圧延鋼板及び鋼帯 (JIS G 3141)</p> <p>c) 機械構造用炭素鋼鋼材 (JIS G 4051)</p> <p>寸法：φ30×厚さ 0.28mm</p>

つづく

つづき

<p>留付材</p>	<p>下地材と下地被覆材の固定用： 材料：①及び② ①溶接ピン 材質：1)又は2) 1)軟鋼線材(JIS G 3505) 2)冷間圧造用炭素鋼線(JIS G 3507-2) 寸法：φ2.0×長さ17mm以上 ②ワッシャー 材質：1)、2)又は3) 1)一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 2)冷間圧延鋼板及び鋼帯(JIS G 3141) 3)機械構造用炭素鋼鋼材(JIS G 4051) 寸法：φ30×厚さ0.28mm 留付間隔：300mm以下</p>
	<p>被覆材の固定用： 材料：①～④ ①溶接ピン 材質：1)又は2) 1)軟鋼線材(JIS G 3505) 2)冷間圧造用炭素鋼線(JIS G 3507-2) 寸法：1)及び2) 1)φ2.0×長さ30mm以上(重ね代部) 2)φ2.0×長さ17mm以上 留付間隔：300mm以下 ②ワッシャー(溶接ピン用) 材質：1)、2)又は3) 1)一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 2)冷間圧延鋼板及び鋼帯(JIS G 3141) 3)機械構造用炭素鋼鋼材(JIS G 4051) 寸法：φ30×厚さ0.28mm以上 ③ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125) 寸法：φ4～5×長さ40～50mm 留付間隔：周辺端部300mm以下、一般部450mm以下 ④ワッシャー(ドリリングタッピンねじ用) 材質：1)、2)又は3) 1)一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 2)冷間圧延鋼板及び鋼帯(JIS G 3141) 3)機械構造用炭素鋼鋼材(JIS G 4051) 寸法：φ30×厚さ1.0mm以上</p>
<p>水切り板</p>	<p>種類：①又は② ①あり 材料：アルミニウム合金押出形材(JIS H 4100) 寸法：幅70(±7)×厚さ4(±0.5)mm以下 ②なし 水切り板固定用ビス(水切り板を用いる場合)； 材料：ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125) 寸法：φ4～5×長さ16～19mm</p>

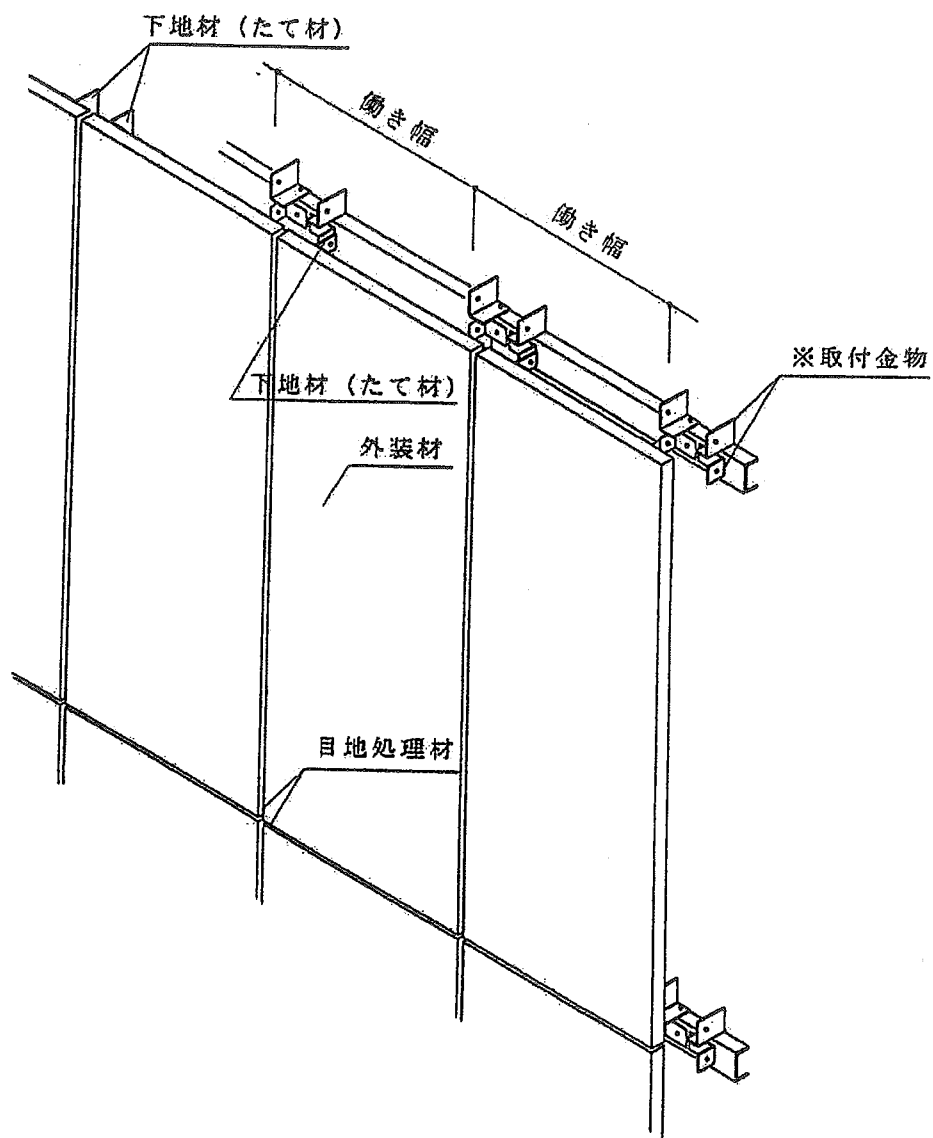
5. 申請仕様の構造説明図：
 申請仕様の構造説明図を図1～図6に示す。



※評価対象外

透視図(水切り板あり)

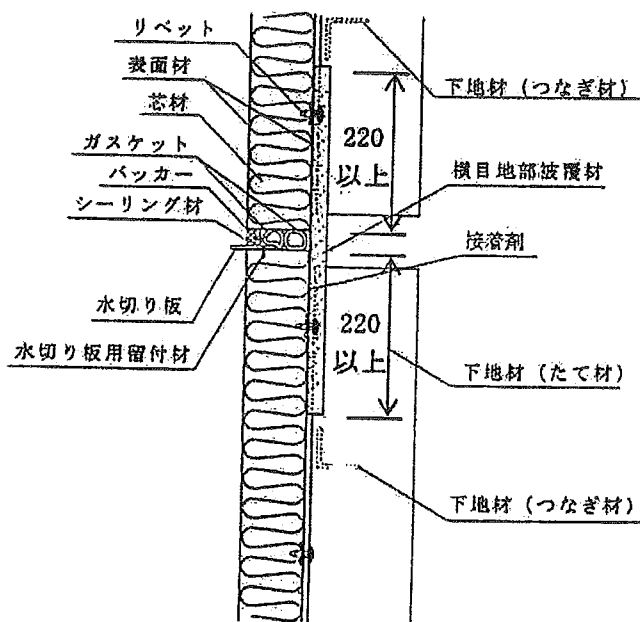
図1 構造説明図



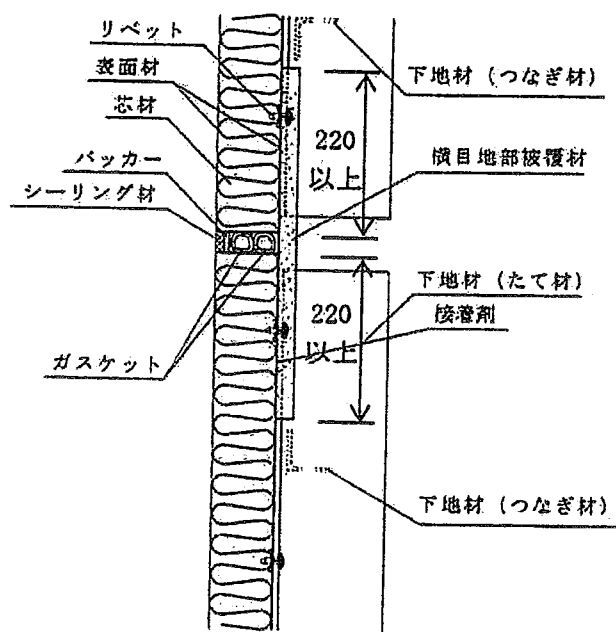
※評価対象外

透視図(水切り板なし)

図2 構造説明図



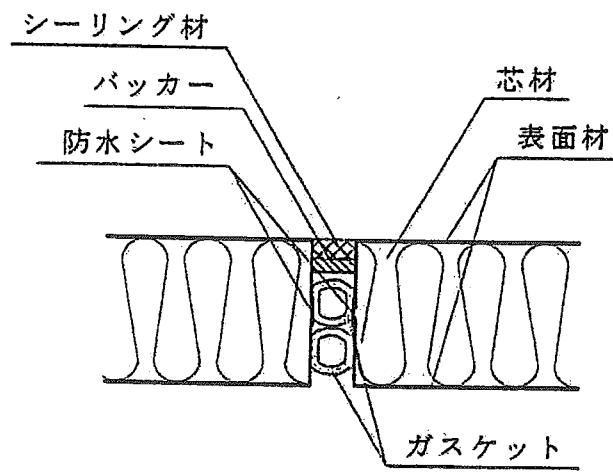
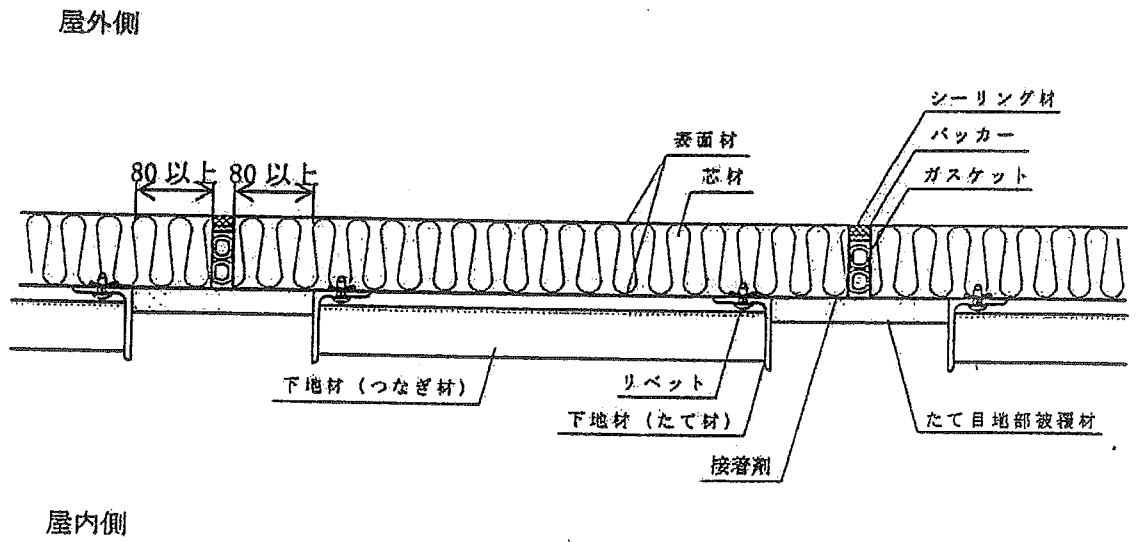
鉛直断面図 (水切り板あり)



鉛直断面図 (水切り板なし)

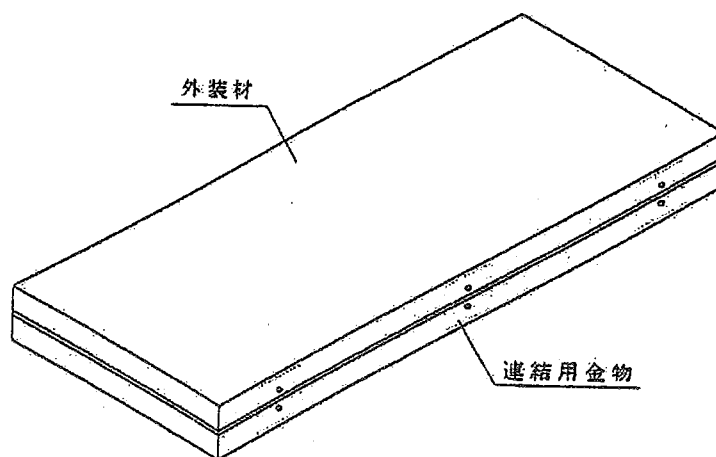
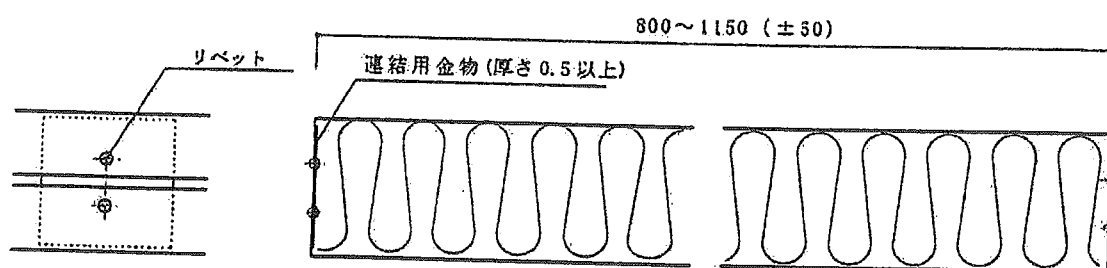
図3 構造説明図

単位 mm



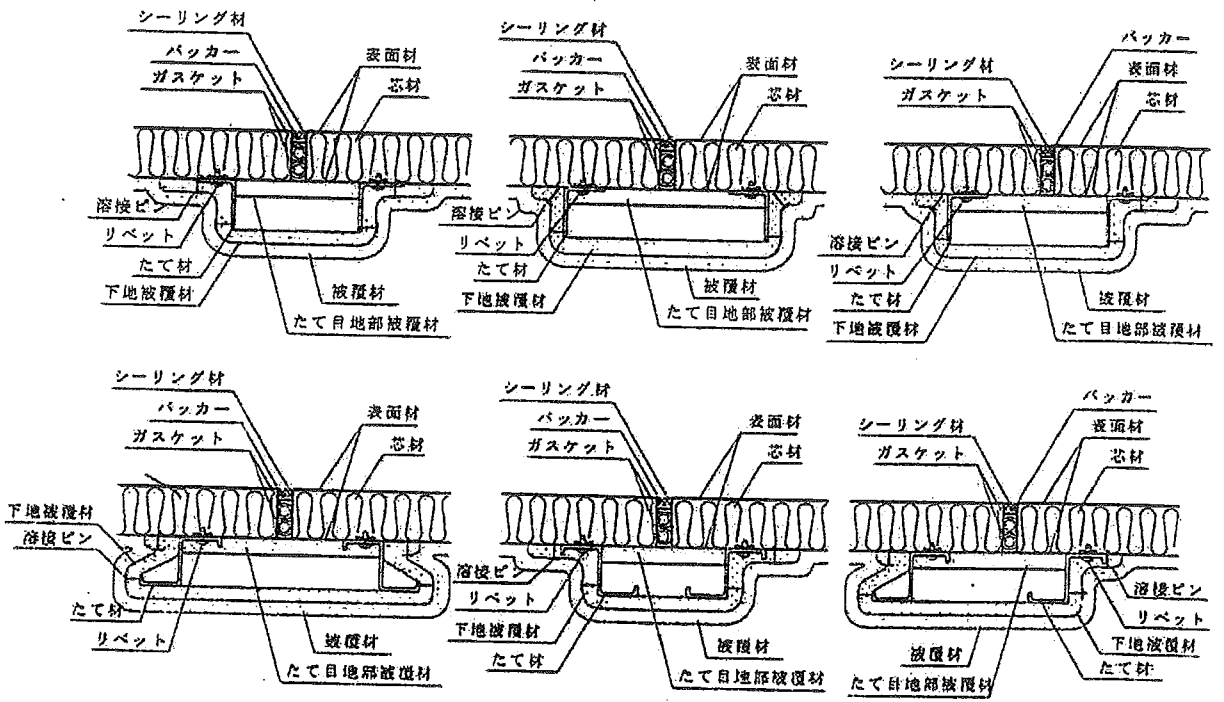
目地詳細図

図4 構造説明図

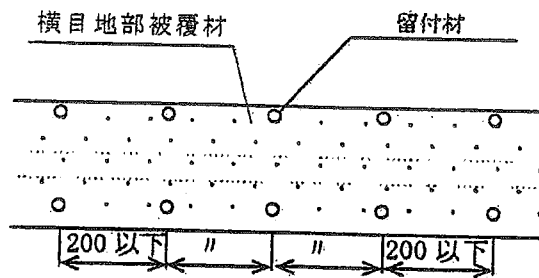


外装材詳細図

図 5 構造説明図



たて目地被覆詳細図



横目地被覆詳細図

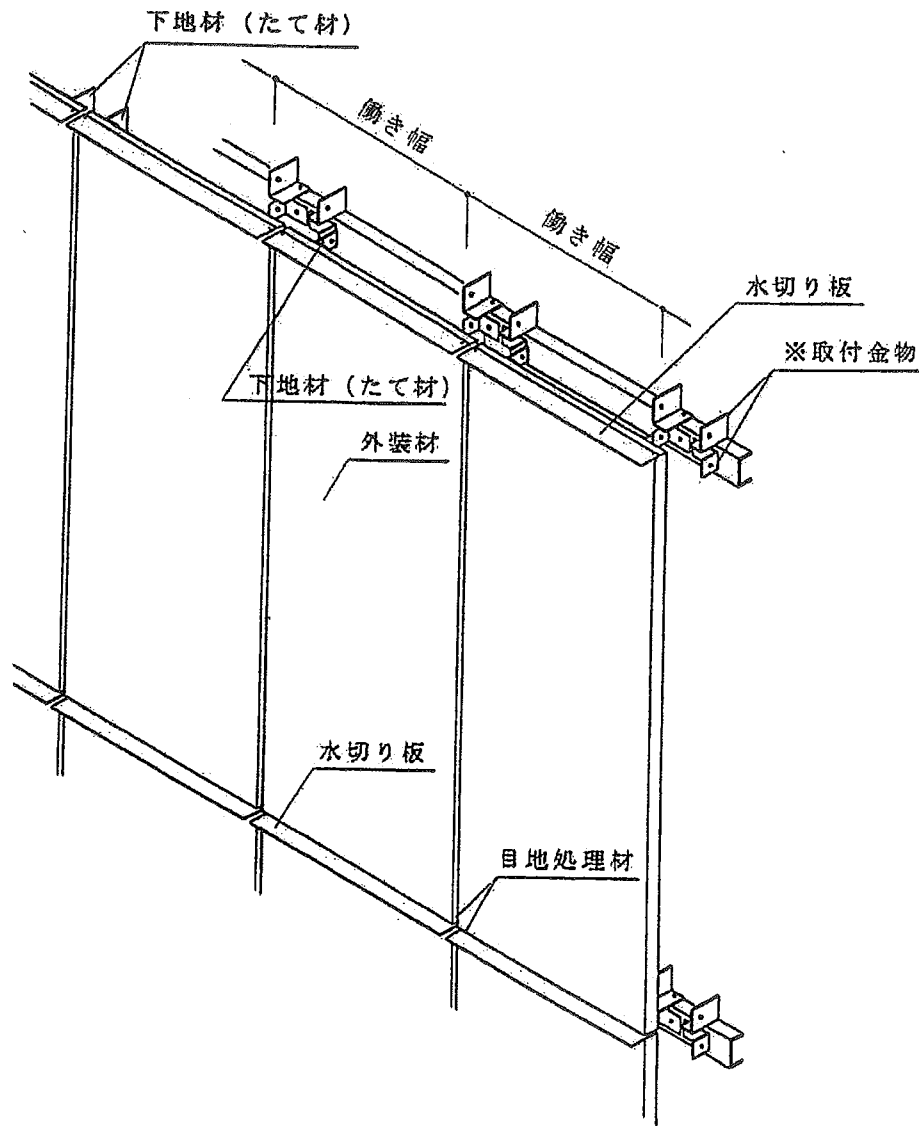
図 6 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図7～図9に示す

施工図は以下の手順で行う。

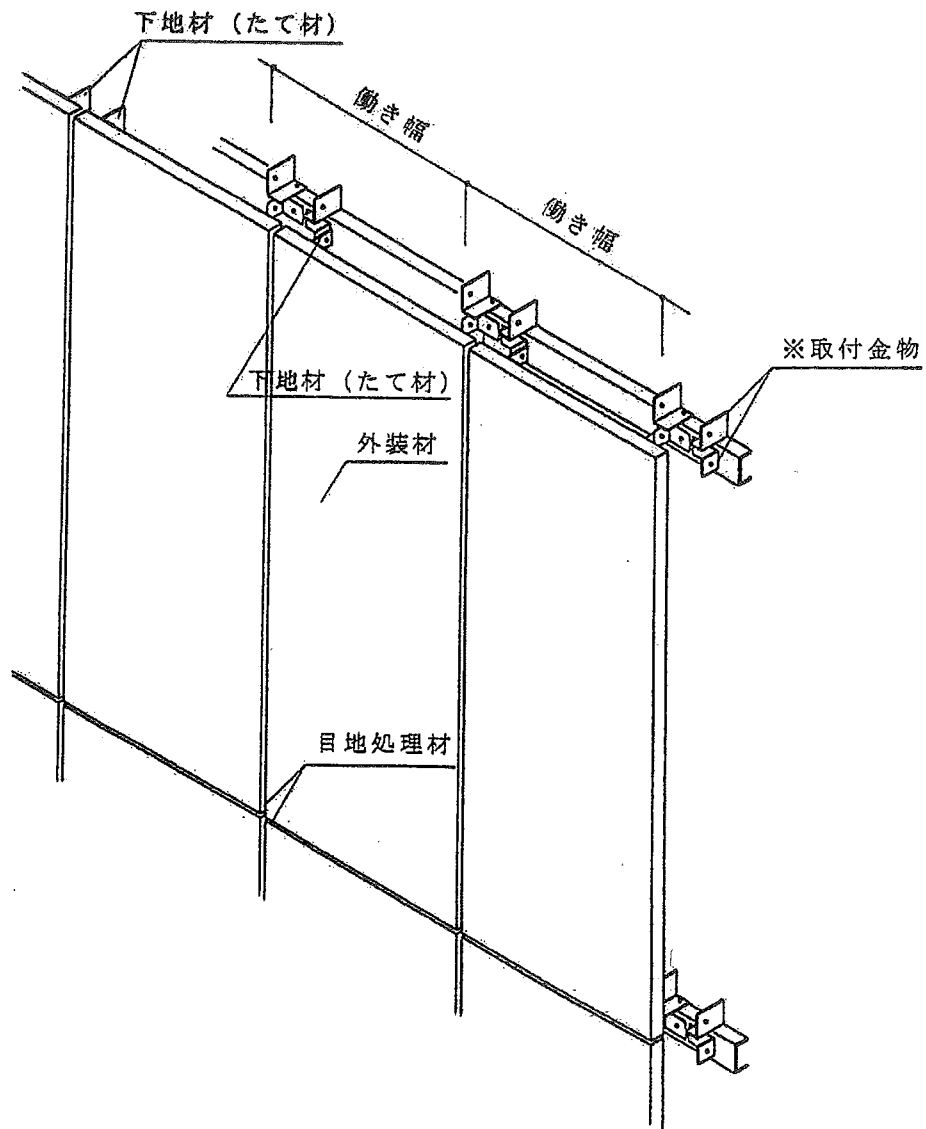
- 1) 設計図書に従い基準墨を出す。
- 2) 外装材目地部小口にガasketを貼り付ける。
- 3) 外装材をつり込み、基準墨に従い取付金物位置で仮留めする。
- 4) 外装材の水平位置を決めた後、倒れを調整し、取付金物(評価対象外)で本締めをする。
- 5) 下段外装材と上側小口に定形ガasketを取付け上段の外装材を施工する。
- 6) 上記作業を繰り返し、外装材を積み上げていく。
- 7) 外装材のたて目地は、シーリング材を施し、防水処理をする。また、外装材に横目地がある場合は、目地幅に応じて塗布量を調整し、シーリング材を施す。
- 8) たて目地部をたて目地部被覆材にて被覆する。
- 9) 横目地部を横目地部被覆材にて被覆する。
- 10) 下地材を下地材被覆材にて被覆する。
- 11) 屋内側全面を被覆材にて被覆する。



※評価対象外

透視図(水切り板あり)

図7 施工図



※評価対象外

透視図(水切り板なし)

図8 施工図